

### 3 地域別の動向

#### (1) 北海道



北海道地域では、景気はやや悪化しつつある。

- ・ 鉱工業生産は減少している。
- ・ 個人消費は弱い動きとなっている。
- ・ 雇用情勢はやや悪化しつつある。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(↑は上方に変更、↓は下方に変更)。

#### 前回調査からの主要変更点

	前回(平成20年8月)	今回(平成20年11月)	
景況判断	弱含み	やや悪化しつつある	
鉱工業生産	やや弱含み	減少	
住宅建設	大幅に減少	大幅に増加	
雇用情勢	依然として厳しい状況であり、持ち直しの動きに足踏み	やや悪化しつつある	

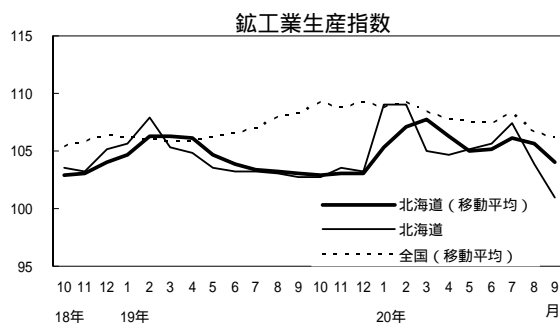
#### 1. 生産及び企業動向

(1) 第一次産業は、生乳生産及び水産業の水揚量は前年を上回っている。

7～9月期は、生乳生産は、牛乳等向け、乳製品向けがともに増加したため、総量では984,139tと前年比2.7%増となった。水産業(主要8港)は、するめいかは前年を下回ったものの、ほかつけやさんまが前年を上回ったことから、水揚量は前年を上回っている。

(2) 鉱工業生産は減少している。

食料品は、猛暑の影響から清涼飲料水等は好調だったものの、塩蔵品等が低調だったことから、減少している。パルプ・紙は、チラシ用等の微塗工紙が伸びたことから、増加している。鉄鋼は、自動車向け等の特殊鋼は好調だったものの、建築向けの普通鋼は低調だったことから、横ばいで推移している。電気機械は、ゲーム機向けのモス型半導体集積回路等は好調だったものの、携帯電話が低調だったことから、減少している。金属製品は、鉄骨等は低調だったが、鉄塔が大型案件の受注を受けて伸びたこと等から、増加している。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		4～6 月期	7～9 月期	7～9 月期	7～9 月期
食料品	23.9	1.0	1.0	1.4	4.0
パルプ・紙	10.7	4.0	3.3	1.1	11.7
鉄鋼	8.6	2.6	0.2	3.6	3.6
電気機械	8.4	3.9	15.4	17.9	19.2
金属製品	8.0	17.9	2.7	1.1	3.8
鉱工業	100.0	2.3	1.0	3.9	5.4

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

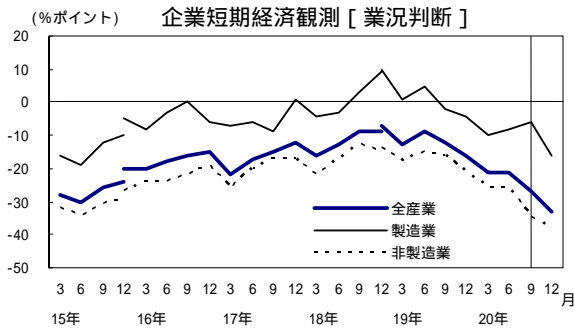
2. 7～9月期は速報値。

(備考) 1. 17年=100、季節調整値、北海道の最新月は速報値。

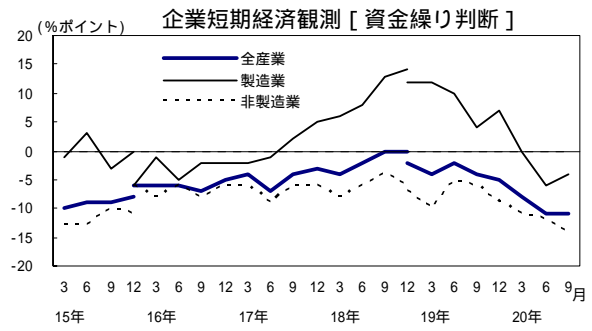
2. 全国及び北海道の大線は後方3か月移動平均。

(3) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が拡大し、資金繰り判断は「苦しい」超幅が横ばいとなっている。

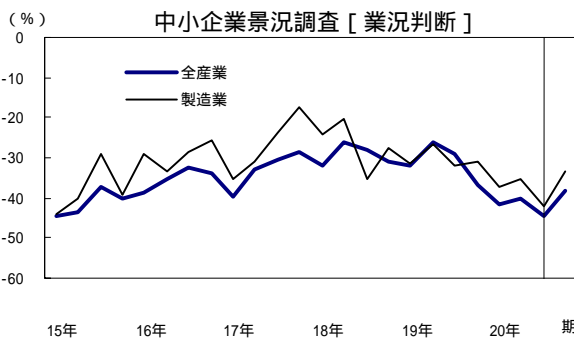
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。20年12月は予測。15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。20年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(10月)[企業動向関連(現状)]

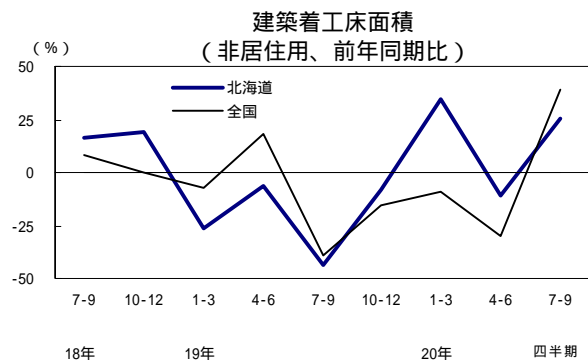
「土木建築会社に与信不安企業が増加し、新規取引が困難な状況となってきた(輸送業)」など、「悪くなっている」とする回答が多くみられた。

(4) 20年度の設備投資は前年度とほぼ同水準の計画となっている。

企業短期経済観測調査[設備投資(9月調査)]

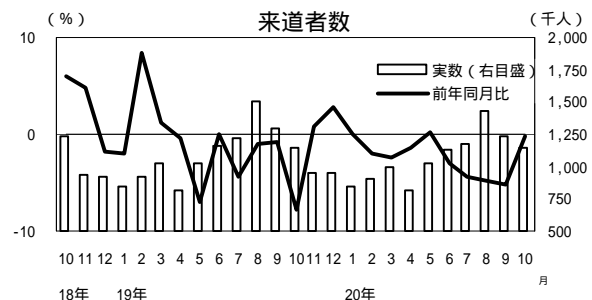
	(前年度比、%)	
	19年度実績	20年度計画
全産業	11.7	1.7( 2.2)
製造業	36.1	9.3( 0.6)
非製造業	0.8	2.9( 3.0)

(備考)( )は前回(6月)調査比修正率。電気・ガスを除く。



(5) 観光は、弱い動きとなっている。

来道者数は、航空機会社の機材小型化に伴う提供座席数の減少等の影響も受け、旭川周辺を除く他の地域への入込みが振るわず、7~9月期は前年比4.8%減と前年を下回った。10月は、フェリーでの来道者数が増加したこと等から同0.2%減となっている。



(備考)北海道観光振興機構調べ。

(1) 北海道

2. 需要の動向

(1) 個人消費は弱い動きとなっている。

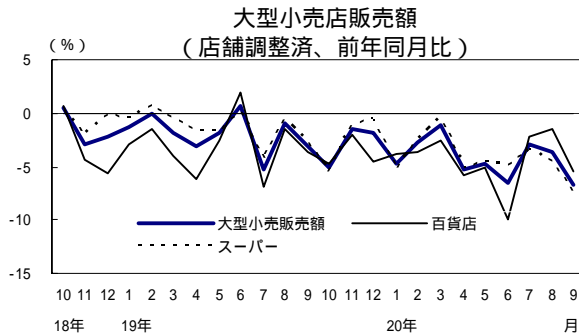
大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、7月は、夏のクリアランスセールを開始日を前年の6月末から7月初にシフトした反動増もあったが、一般的に衣料品、身の回り品ともに振るわず、飲食料品も中元商戦等が低調だったこと等から、前年を下回った。8月は、飲食料品は、土産物用のお菓子類を中心に好調だったが、衣料品は、気温が低かったことから秋物にやや動きがあったものの、全体では振るわず、前年を下回った。9月は、衣料品は、上旬の気温が高かったことからコートやジャケット類で苦戦し、高額商品も株価の急落を受けてさらに低調となったことから、15か月連続で前年を下回った。なお、日本百貨店協会によると、10月の売上高は、札幌地区で前年同月比6.1%減、札幌を除く北海道地区で同7.1%減となっている。

スーパーは、肉や食料雑貨、米などの飲食料品の動きは堅調だったが、天候の影響に加え、消費マインドの低下から衣料品、身の回り品が振るわず、全体としては前年を下回った。

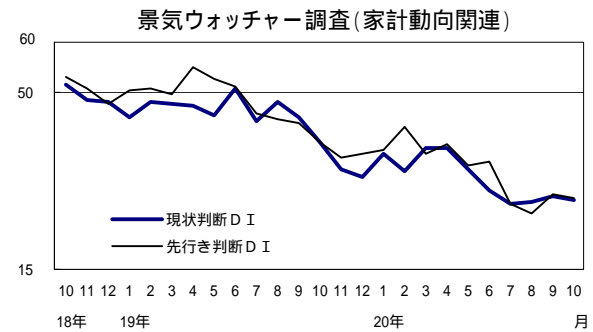
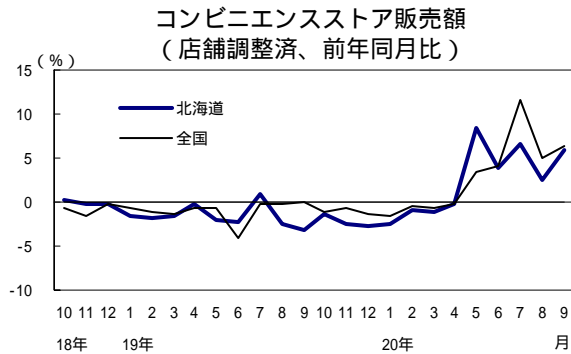
景気ウォッチャー調査(10月)[家計動向関連(現状)]

「10月は秋冬物に動きが出てくるが、例年より暖かいため、ほとんど動きがなく、非常に悪い状況にある(衣料品専門店)」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。



	(前年同期比、%)			
	19年10-12月	20年1-3月	4-6月	7-9月
大型小売店	2.7	2.9	5.5	4.4
百貨店	3.9	3.3	7.0	3.0
スーパー	2.2	2.8	4.8	5.1
コンビニ	2.2	1.5	4.1	5.0
景気ウォッチャー	36.2	37.1	34.9	28.6

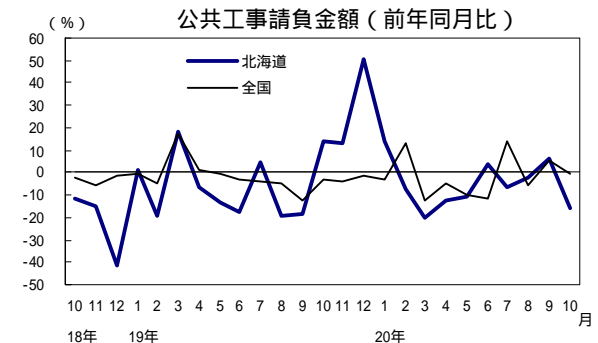
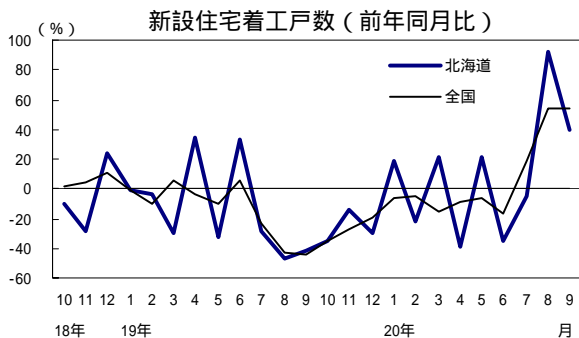
(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。  
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断DIの3か月平均。



(2) 住宅建設は大幅に増加している。

建築基準法改正の影響により前年の水準が低いため、貸家を中心に大幅に増加している。

(3) 公共投資は20年度累計で見ると前年度を下回っている。



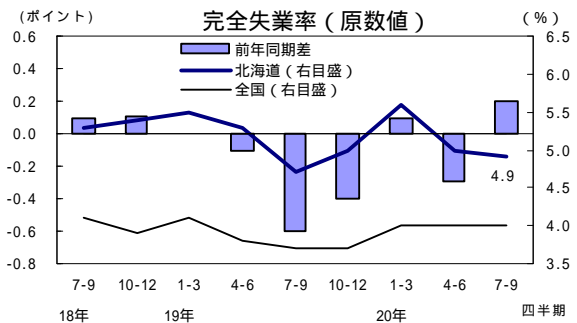
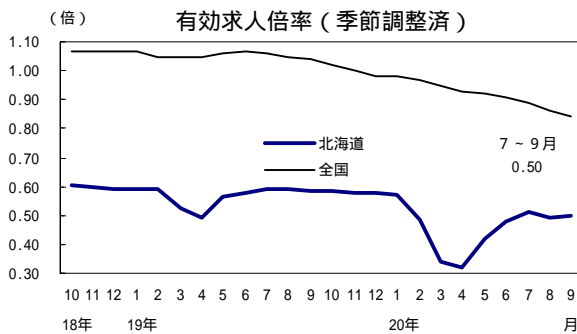
### 3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢はやや悪化しつつある。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を上回っている。

このところの求人倍率の上昇には、前年末の北海道労働局の求人数の計上方法変更も影響しているとみられる。



景気ウォッチャー調査 (10月)[雇用関連(現状)]

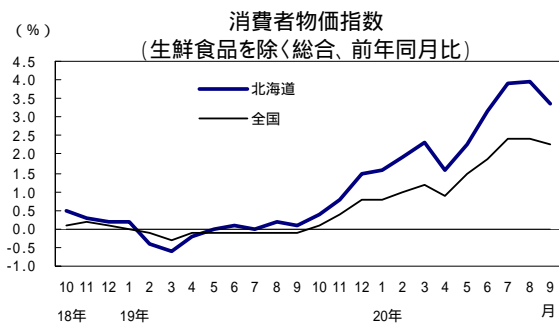
「求人相談が減少している。人件費率を上げたくないという意識の現れだが、即戦力となる人材へのニーズはまだ多いとみられる一方、事務職や一般営業職の求人は、欠員対応以外は控えられている(人材派遣会社)」など「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数が大幅に増加し、負債総額も増加している。

(3) 消費者物価指数は前年比の上昇幅が拡大している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	19年10-12月	20年1-3月	4-6月	7-9月	20年10月
倒産件数	132	168	187	190	58
(前年比)	0.0	5.7	8.7	37.7	23.4
負債総額	816	700	440	706	192
(前年比)	51.6	40.6	2.0	52.1	56.9



景気ウォッチャー調査 (10月)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

・米国発の金融不安や株価下落により、銀行の融資査定が厳しさを増しており、業界企業の資金繰りは苦しい。魚種の漁獲量が例年と大きく変わっており、加工原料の確保に不安がある。原料価格高騰などの影響もあり、採算面での不安が増している(食料品製造業)。

<先行き>

・燃料高騰等を理由に11月から本州間との航空便、フェリーの減便が決定している。海外からの観光客も、韓国からの入込客の減少に加えて、台湾からのチャーター便も減便の動きがみられる。これらのことから、観光入込客の先行きはかなり厳しくなる(観光名所)。

景気ウォッチャー調査(合計)

